

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300229		
法人名	医療法人社団 大法会		
事業所名	浜松市永島 グループホーム耀	ユニット名	1F ユニット
所在地	静岡県浜松市浜北区永島675-1		
自己評価作成日	平成22年4月3日	評価結果市町村受理日	平成22年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.in/kaigosin/infomationPublic.do?LCD=2278300229&SCH
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成22年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の希望や残存機能に応じた支援を心がけている。自由で、自分のペースが保てる生活を目ざし、日々楽しく過ごせるように努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年目を迎えて新しい管理者の下、これまでの取り組みで運営推進会議を定期的開催し、家族、毎回地域関係者の参画を得ている。常に利用者本位のサービス提供を考え全職員に個々の目標を持たせ管理者と共に目的意識を持って日々の介護に活かしている。年々利用者の身体機能が低下するという問題に直面しているが職員・家族・医療関係者との密な連携が取れている。散歩や買い物などの戸外活動を日常的に取り入れ、ホームの行事などにより近隣の住民や子供との関わり、信頼関係を深める働きかけもしている。さらに地域の中で存在感のあるグループホームになるよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、その人の思いや願いを大切にするケアを目指す。事業所理念は見えるところに掲げている	毎月の全体会議にて理念の見直しをし、日々意識付けられるよう全職員が取り組み実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、草刈り、側溝の掃除に利用者と共に参加。祭典、節分の行事にも楽しく参加している。自然体で馴染めている	自治会に加入し、地域の環境美化に利用者と共に参加、節分の行事には地域の子供たちが、夏祭りには近隣の方々との交流がある。マジック、大正琴のボランティア、中学生の体験学習の受け入れ等も行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の席で正副自治会長、民生委員に当事業所の役割等を理解して頂き、地域の方の相談も受け入れる提案をしているが、実現していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み状況を報告し、話し合いを行っている。参加者の意見を積極的に取り入れ、サービスに反映している	区役所職員・自治会長・民生委員・介護相談員・地域包括支援センター・利用者・家族が参加している。年6回状況報告等詳細に報告し、出された意見や情報を取り入れサービス向上に活かしている。	さらに地域のより多くの方に理解して協力してもらう為にメンバーの工夫をし地域と双方向で連携が深められるような協力体制を築いていく事を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が毎月来所している。サービスの取り組みや利用者の実情を直に見て理解してもらった上で協力関係を築いている。運営推進委員会にも毎回参加している	区担当職員、介護相談員が毎回運営推進委員会に参加している。介護保険の更新等についてアドバイスをもらうなど密に連携が取られ協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その方の人権を守ることが拘束しないケアであり、その実践のための学習しているが、十分に出来ていないのが実情。玄関の施錠は職員体制もあってしてしまうことが多い	人権を守る実践の為の学習を行なっている。利用者の状態を察知して安全の為玄関を施錠しているが、利用者の希望があればすぐに開けられるよう状況に応じ閉塞感を与えないよう配慮している。	玄関の様子が内部から分かりやすくなるような工夫などして、施錠しなくても済む体制を望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉や心理的なものも見逃さないよう職員間でチェックを行ない、防止に努めている。学ぶ機会には研修、参加者からの伝達等で作ってはいるが十分ではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体としては取り組めていない。現在制度の活用が必要である利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所から十分な説明を行った上で、利用者や家族から不安・疑問・意見を承り、理解・納得して利用、解約をして頂くよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時・電話等で常に意見・要望が表せるように、日頃より信頼関係を築く努力はしている。運営推進会議は意見・要望を外部へ表せる機会としての役割も果たしている	家族の訪問時に声掛けをし、意見や要望が聞かれるよう日頃より信頼関係を築く努力がされ、毎月定期的に「耀だより」に担当職員が近況などお知らせしている。家族への提案事項に意見をもらえる工夫も検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会、ユニット会議や、必要時にはその機会を設けている。日頃から意見が出しやすい状況づくりに努めている。意見・提案については反映する努力はしているが十分ではない	日頃から意見が出しやすい雰囲気作りを心掛け毎月の全体会で活発に意見交換できるよう努めている。年1回職員の個人目標について管理者は個人面談をして個々の職員の質の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者個別の担当を受け持ったり、介護以外の業務を係としてこなすなどやりがいをもって働けるよう努めている。職員個々の給与水準、労働時間への反映は業界自体の状況もあり芳しくない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修・講習へ参加するようにしているが、思うようには出来ていない。参加した職員には会議にて伝達し、資料は回覧して全職員で共有している。また専門雑誌、その他情報も回覧している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と全国のグループホーム協会に入会しており、可能な限り研修へ参加している。実習生や他事業所の見学者の受け入れを通して学ぶ機会を作り、視野が狭くならないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面での印象は大切なので十分に配慮し、対応している。利用決定前に家庭へ訪問を行い本人の想いを真摯に傾聴している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に対しての相談信頼関係が出来るよう、現状の悩み、利用の不安を聞く機会をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での負担の重さ理解した上で、現在の段階での必要とするサービスは何かを見極め、当事業所以外の法人内外サービス事業所に相談・紹介している。相談の受け入れいつでも訪問して頂けるよう門戸を開いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で行動(洗濯・掃除・炊事)を一緒に行うことで、暮らしを共にする関係を築いている帰宅願望の強い利用者への配慮として職員は悟られないように帰宅している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会によく来てくださる家族とは築けているが、電話お便りによる報告だけの家族一方的になってしまっているのが現状		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との話の中で出てきた名前・地名は本人・家族に聞いて確認するようにしている。面会に来てくださる人との関係は続いているが、そうでないと難しい、場所に関しては帰宅願望もありこちらも難しい	美容院に行ったり、法事に参加したり、これまでと変わらない馴染みの関係を大切に常に利用者側に立った支援に取り組んでいる。利用者の生活歴を理解する為に家族との連携に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の問題は個々の様々な面を把握して互いが良い関係で居られるよう支援に努めている。職員が間に入り良い関係を保つ調整も行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても地域密着型サービスの意義をふまえて関係は大切にしている。必要に応じてその後の利用サービスを生かせるよう出来る協力はしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の気づき、記録を主に希望・意向の把握の努力している。把握しづらい方への検討は本当に本人本意なのか難しい	希望や意向の把握は寄り添いながら聞き取り、希望に添えるような努力がされている。意思疎通の困難な利用者には家族からの聞き取りや本人と非言語手段で汲み取ったりと手探りで行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用が決定したら本人・家族、利用していたサービス事業所から出来る限りの情報を集め把握に努めている。自宅への訪問もできるかぎり行うようにしている。利用が始まってからも情報を得るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の勤務の中での記録を中心にカンファレンス・会議にて情報交換し、様々な角度から把握するよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個別の担当者・計画作成担当者を中心に日々のカンファレンス・ユニット会議で話し合い、出た情報を基にユニット職員全員で作成している。家族からの意見・希望も重視して取り入れている	ケアプラン作成時にユニット職員全員で話し合い、その情報を基に家族の意見・希望も重視し作成している。昨年の課題であった介護計画書の経過記録も記載され現状に即した介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことは個人ケースに記録。一日の生活がすぐに目が通せるように要約して介護日誌に記録している。これらを基に実践や介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題があればカンファレンスを行い、本人の希望に沿えるよう個別の外出支援、家族の状況により通院や入院の付き添い等の支援をしている。利用者、家族の要望に応じ出来る限りの対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が住み慣れた地域での暮らしが継続出来るよう民生委員・ボランティア・消防・地域の小・中学校に連絡をとっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ法人内の病院への受診している。全利用者・家族が希望通りと安心されている。同病院との連携により適切な医療を受ける環境が築けている	入所時ケア方針を伝える中で全利用者、家族が納得され、法人内の病院をかかりつけと希望されている。医師は週2回看護師と共に利用者の状態を常時把握し、適切な医療環境が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約、週2回の訪問の他、日中だけでなく夜間でも連絡、来所出来る体制にある。連絡は密にとっており健康管理、医療的な支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院はほとんどないが、病院の相談員と連絡をとり情報交換、相談の結果、早期退院できた例もあった		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始の段階から当事業所の出来る範囲を説明をしている。家族の気持ちも受け入れ、本人にとってベストの選択が出来るように話し合いをしている。当事業所だけでなく法人の他事業所、病院を含めた対応をしている	重度化した場合や看取りについては入居時、指針を基に説明しており利用者、家族から同意を得ている。法人内の病院、施設などとの連携も取れていて、本人にとってベストの選択が出来るように家族とも十分話し合いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に予想できる応急処置などは訪問看護の看護師から指導を受けている。定期的な訓練は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。運営推進会議で事業所の状況を説明し、災害時の協力を働きかけている。自治会の方からは「近くだからすぐ駆けつけてあげますよ」と有り難い声も頂いている	消防署の協力を得て、年2回の防災訓練を実施している。また、職員の通報伝達訓練、地域の防災訓練にも参加している。スプリンクラーは近々取り付ける計画がある。	火災や地震などの発生時に備えて、備蓄品についての検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員各自が気をつけているが、言葉遣いなど慣れで尊厳を損なう対応が行われてしまっているのが現状	職員は居室に入るときはノックしたり声を掛けるなどの配慮もあり優しく丁寧な対応がみられる。利用者は表情もよく気持ちのいい生活がきている。しかし、「まだ自覚が足りないこともある」という職員自らの反省のことも聞かれた。	さらに優しい介護を目指し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応についての研修を重ねられることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活からその方に対応した接し方で、自分の気持ちを表せるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	医療的な問題もあり職員側の都合や、利用者全体のことを優先する場合も出てくることが多い。食事は個人のペースで行えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアピン、乳液を使用している方もいる。本人の選択で毎日の衣服は決定、散髪は訪問理容や近所の床屋で対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみにしている方が多い。職員が献立を作成、調理している。偏食のある方は別メニューあるいは一部変更して提供。準備、片付けは個々の出来ることをして頂いている	力に応じて準備や片付けをしており、食後、順番に食器を洗い戸棚に片付けることが習慣になっている利用者もある。利用者の誕生日には希望の献立にするなど、より楽しみな食事となるような工夫が見られる。	五感を働かせたり食事がさらに楽しめるようにする為に、畑を活用することも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、好き嫌いを把握した上で支援は行っている。医師と相談しつつ、本人の状態、習慣に応じた栄養摂取や水分補給の支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症の予防のためにも最低1日1回清潔保持できるよう支援している。義歯の方付け置き洗浄も支援している。毎食後のみがき支援も全員ではないがしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の方もなるべくトイレで排泄できるよう、排泄の間隔時間や動きの様子でトイレ誘導の支援を行っている	一人ひとりの排泄の間隔時間の把握、本人の訴え、また動きの様子を察知しながら、できるだけトイレで排泄できるよう誘導しオムツの使用を減らすよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘の原因をふまえ、出来るだけ自然排便をめざし食事、運動で支援を行っている。重度の場合は医師・看護師に相談して対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているがその中で出来るだけ希望に沿って支援している。希望がない方は職員が配慮しつつ誘うことが多い	利用者の希望に合わせており、毎日入浴する方もある。入浴嫌いな利用者には時間や人を変えて誘ってみたりしながら、タイミングを見取り入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活のリズム、習慣を考慮して支援は行っているが、基本的には自由にして頂いている。不眠時は話し相手をしてもらい、安心して睡眠に入れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬関係のファイル、使用する際の情報を記入したノートを見ることによって理解できる用になっている効用、副作用を理解した上で状態の変化には常に気をつけている。不明なことがあれば医師、看護師に確認、相談は随時している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、日々の会話からやりたいこと、興味のあることの把握をしつつ支援をしている。生活歴からの安易な決めつけには注意している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見計らったの外出・行楽は行っているが、一人一人の希望にそった支援は体制上難しい。家族に協力によって出かけられているが、全員ではない	ほぼ毎日、10分程の散歩に出かけている。日々の食事の買い物には職員と一緒に利用者も交替で出掛けている。季節に応じて行楽にも出掛けている。家族によっては、自宅に連れて帰ったり、遊びに一緒に出掛けたりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、了解を得ている方は自分で所持している。物盗られ妄想の方もいるため、家族から小遣いを預かって職員が代行する方が大半。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば家族、相手に配慮しつつ支援している。手紙はあまり希望はない。携帯電話を持ち込まれている方も一部いる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の話し声、足音等が不快にならないよう、各自注意している。光はカーテン・照明で調整。花・装飾で季節感を出すように心がけてはいるが、限りもある	玄関には花が栽培されベンチが置かれている。居間は明るく季節を感じられる景色が眺められ、庭へも自由に出られる。台所も食器戸棚も利用者の使い勝手が考慮されており居心地のよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファが設置されていて、利用者同士の会話や、独りになったりへの居場所として十分に活用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始が決定してから馴染んだ家具を使い、本人・家族と居室の配置等を決めている。その後必要な物を加えたり、配置換えを行いつつ居心地良い場所になるようにしている。また、なれた物を置くことで追い出されたと思う方もいて、適宜対応	家庭で使っていたベットや筆筒、ご主人の位牌、家族の写真、手紙、絵、本、など利用者ごと馴染みのものが置かれている。その人らしさの感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全と自立は相反することであるが、日々見直しと工夫を怠らず努力している。安全を確保しつつ出来ることをやって頂いている。本当に自立した生活であるのか難しい		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300229		
法人名	医療法人社団 大法会		
事業所名	浜松市永島 グループホーム耀	ユニット名	2F ユニット
所在地	静岡県浜松市浜北区永島675-1		
自己評価作成日	平成22年4月3日	評価結果市町村受理日	平成22年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kounyo-shizuoka.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=2278300229&SCD
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成22年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者によって認知機能に差が出てしまっているが、互いに共同生活が楽しいものになるよう、利用者同士、職員も含めた関係作りに努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、その人の思いや願いを大切にすけるケアを目指す。事業所理念は見えるところに掲げている	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、草刈り、側溝の掃除に利用者と共に参加。祭典、節分の行事にも楽しく参加している。自然体で馴染めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の席で正副自治会長、民生委員に当事業所の役割等を理解して頂き、地域の方の相談も受け入れる提案をしているが、実現していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み状況を報告し、話し合いを行っている。参加者の意見を積極的に取り入れ、サービスに反映している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が毎月来所している。サービスの取り組みや利用者の実情を直に見て理解してもらった上で協力関係を築いている。運営推進委員会にも毎回参加頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その方の人権を守ることが拘束しないケアであり、その実践のための学習しているが、十分に出来ていないのが実情。玄関の施錠は職員体制もあってしてしまうことが多い		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉や心理的なものも見逃さないよう職員間でチェックを行ない、防止に努めている。学ぶ機会は研修、参加者からの伝達等で作ってはいるが十分ではない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体としては取り組めていない。現在制度の活用が必要である利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所から十分な説明を行った上で、利用者や家族から不安・疑問・意見を承り、理解・納得して利用、解約をして頂くよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時・電話等で常に意見・要望が表せるように、日頃より信頼関係を築く努力はしている。運営推進会議は意見・要望を外部者へ表せる機会としての役割も果たしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会、ユニット会議や、必要時にはその機会は設けている。日頃から意見が出しやすい状況づくりに努めている。意見・提案については反映する努力はしているが十分ではない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者個別の担当を受け持ったり、介護以外の業務を係としてこなすなどやりがいをもって働けるよう努めている。職員個々の給与水準、労働時間への反映は業界自体の状況もあり芳しくない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修・講習へ参加するようにしているが、思うようには出来ていない。参加した職員には会議にて伝達し、資料は回覧して全職員で共有している。また専門雑誌、その他情報も回覧している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と全国のグループホーム協会に入会しており、可能な限り研修へ参加している。実習生や他事業所の見学者の受け入れを通して学ぶ機会を作り、視野が狭くならないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用決定前に家庭へ訪問を行うことで利用開始よりサービスがスムーズに行えるようにしている。その時本人の話を傾聴し、安心して頂けるよう共感・受容に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に対しての相談信頼関係が出来るよう、現状の悩み、利用の不安を聞く機会をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での負担の重さ理解した上で、現在の段階での必要とするサービスは何かを見極め、当事業所以外の法人内外サービス事業所に相談・紹介している。相談の受け入れいつでも訪問して頂けるよう門戸を開いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に行動を行うことで、暮らしを共にする信頼関係を築き、継続出来るよう努めている。人生の先輩として経緯を表すが遠慮なく希望が言える関係も築いていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会によく来てくださる家族とは築けている。電話お便りによる報告だけの家族には、お便りに現状を伝えるコメントを載せている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との話の中で出てきた名前・地名は本人・家族に聞いて確認するようにしている。面会に来てくださる人との関係は続いているが、そうでないと難しい、場所へのかかわりは家族との外出で続いている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の問題は個々の様々な面を把握して互いが良い関係で居られるよう支援に努めている。利用者同士のやりとりで介入する支援が必要な場合職員が素早く間に入る。偏りがないように平等を心がける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても地域密着型サービスの意義をふまえて関係は大切にしている。必要に応じてその後の利用サービスを生かせるよう出来る協力はしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の気づき、記録を主に希望・意向の把握の努力している。本人本意の支援を目指しているがそうなっているかわからない		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族、利用していたサービス事業所から出来る限りの情報を集め職員が共用し把握に努めている。事前に自宅への訪問も行うようにしている。利用が始まってからも情報を得るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を理解できるよう日々の勤務の中での気づき、記録を中心にカンファレンス・会議にて情報交換し、把握するよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個別の担当者・計画作成担当者を中心に課題・問題点を見直し、カンファレンス・ユニット会議で情報交換を行い、職員全員で作成している。家族からの意見・希望も柔軟に取り入れるよう努力している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人ケースに記録。要約したものを介護日誌に記録している。介護日誌を見ることにより短時間で情報の共有が可能となっている。これらを基に実践や介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあればカンファレンスを行い、本人の希望に沿えるよう検討しているが実行は難しい。利用者、家族の要望には出来る限りの工夫をして対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域での豊かな暮らしが継続出来るよう民生委員・ボランティア・消防に連絡をとっているがあまり出来てはいない。細かな地域資源の把握ができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ法人内の病院への受診している。家族からは希望通りと安心と信頼を得ている。同病院との連携により適切な医療ができています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約、週2回の訪問の他、いつでも連絡、来所出来る体制にある。連絡は密にとっており健康管理、医療的な支援を行っている。看護師との連絡ノートの活用により職員全員が情報を共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院はほとんどないが、病院の相談員と連絡をとり情報交換、相談とった結果、早期退院できた例もあった		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始の段階から当事業所の出来る範囲を説明をしている。家族の気持ちも受け入れ、本人にとってベストの選択が出来るように話し合いをしている。当事業所だけでなく法人の他事業所、病院を含めた対応をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は訪問看護の看護師から指導を受けている。定期的な訓練は行っていないが、今後行いたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っている。運営推進会議で事業所の状況を説明し、災害時の協力を働きかけている。自治会の方からは「近くだからすぐ駆けつけてあげますよ」と有り難い声も頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を表して接しているが、時々馴れ馴れしさが度を超してしまう時もある。知らないうちにプライドに傷を付けているかもしれない		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように色々な接し方をしたり、意志を表して頂けるよう傾聴・受容・共感を忘れずに対応している。本当に自己決定なのかわからなくなることも		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に沿うようにはしているが、職員側の都合になりがち。その日の体調や状態で希望に沿えないこともある。その場合日を改めて支援を行う努力もしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問理容や近所の床屋で対応している。清潔が保たれるよう心がけ、季節にあった装いを勧めてみる支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの希望に沿ったり、外食に出かけたりと食事が楽しみになるよう努めている。片付けは出来る人と出来ない人に分かれてしまうが、個々に応じた対応をしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、好き嫌いを把握した上で支援は行っている。医師と相談しつつ、本人の状態、習慣に応じた支援をしている。食事量、栄養バランスはもう少し考えてもいいと思う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症の予防のためにも最低1日1回清潔保持できるよう支援している。毎食後のほみがき支援が出来ている人は少ない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄するよう、排泄の間隔時間や本人の訴えでトイレ誘導の支援を行っている。間に合わないことも多い		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘の原因をふまえ、出来るだけ自然排便をめざして支援を行っている。運動への働きかけは身体の状態のこともあり思うように出来ていない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっていてその中で出来るだけ希望に合わせて支援している。希望がない方は職員が考慮して誘っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には自由にして頂いている。利用者個々の生活のリズム、習慣を考慮して支援を行っている。その日の体調で必要ならば休息、睡眠を促す支援もしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬関係のファイル、使用する際の情報を記入したノートを見ることによって理解できる用になっている効用、副作用を理解した上で状態の変化には常に気をつけている。不明なことがあれば医師、看護師に確認、相談は随時している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、日々の会話からやりたいこと、興味のあることの把握をしつつ支援をしている。掃除、買い物、ゴミの回収等一緒に行っている。嗜好品は医師相談して出来る限り楽しめるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出・行楽は行っているが、一人一人の希望にそった支援は体制上難しい。家族に協力によって出かけられているが、全員ではない。地域の人々と協力しての外出は出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、了解を得ている方は自分で所持している。家族から小遣いを預かって職員が代行する方が大半。買い物は職員が同行し、本人の選択で行い支払いは職員が代行するのがほとんど		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は希望があれば家族、相手に配慮しつつ支援している。現在こちらを希望される方はほとんどいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快になる音は職員各自注意して出さないよう努めている。花・装飾・展示物で季節感を出すように心がけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファが設置されていて、利用者同士の会話や、独りになったりへの居場所として活用されているが利用される方が偏ってしまっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始が決定してから馴染んだ家具を使い、本人・家族と居室の配置等を決めている。その後必要な物を加えたり、安全を考慮し、配置換えを行なうなどして、安心して過ごせる居室となるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階という事もあり安全面の対応が先に出てしまいがちであるが、利用者の見守り等で出来るだけ自立した生活になるよう努力している。工夫する面はまだあると思われる		